

16 / 17年の需要実績等について

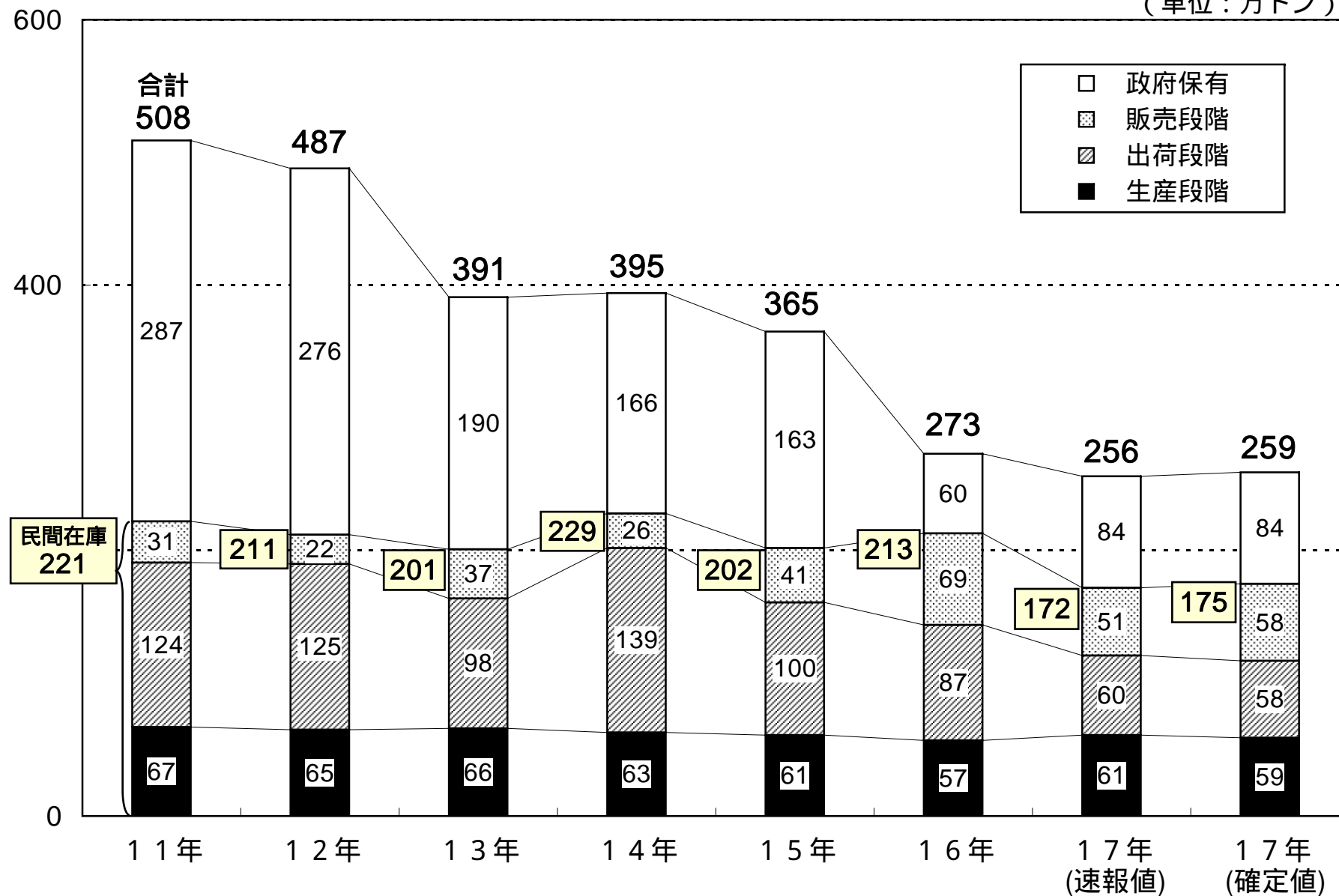
- 1 去る7月に公表した「米穀の需給と価格の安定に関する基本指針（7月基本指針）」においては、16 / 17年の需要実績については、地方農政事務所等による民間在庫の17年6月末の在庫調査結果速報値171万6千トン（17年5月末在庫数量から6月の販売見込数量を差し引いて算定）を基に算定した速報値として、全国ベースで869万トンと見込み公表したところである。
- 2 その後、地方農政事務所等による6月末の実在庫調査による在庫調査の確定値は175万1千トンとなり、速報値に比べ3万6千トン増加したところである。
これは、6月のコメ価格センター（第11回入札）取引において、すべての銘柄の取引価格が上昇したことを受けて、6月中の卸の引取意欲が高まったことにより、全国出荷団体等から販売先に対して大量の販売オーダーが6月末に集中して発行された中で行われた調査であったことから、出荷段階と販売段階間の所有権の移動が的確に把握できなかったこと等によるものと考えられる。
- 3 これにより、16 / 17年の需要実績を再計算した結果、全国ベースで865万4千トンとなり、当初見込んだ速報値に比べ3万6千トン減少したところである。
- 4 以上の結果を踏まえ、平成17 / 18年及び18 / 19年の需要見通しについて、7月基本指針で算定した手法と同様、8 / 9年から16 / 17年の需要実績のトレンド（回帰式）により算定すると、以下のとおりとなる。
このため、今後、平成18 / 19年の都道府県別の需要見通し等の算定に当たっては、見直し後の需要見通しをベースに算定することとしたい（11月基本指針において最終的に精査したものを提示）。

（万トン）

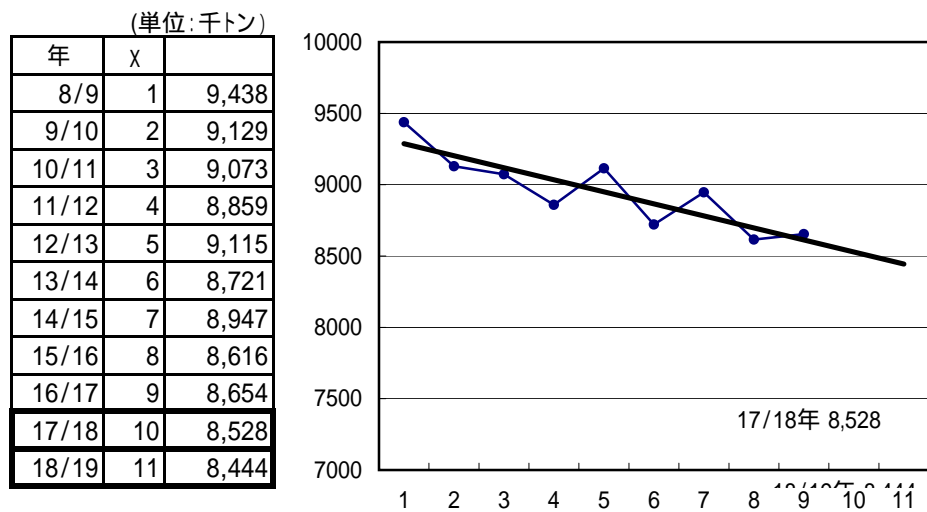
	7月基本指針	見直し後
平成17 / 18年	8 5 4	8 5 3
平成18 / 19年	8 4 6	8 4 4

政府及び民間流通における6月末在庫の推移

(単位：万トン)



平成17/18年及び18/19年の需要見通しの算定



注：平成15/16年の需要実績については、15年産米の政府追加買入れが行われたことに伴い、再計算を行っている。